

# 山行報告書

作成:2006年6月21日

愛知岳連 岡崎山岳会

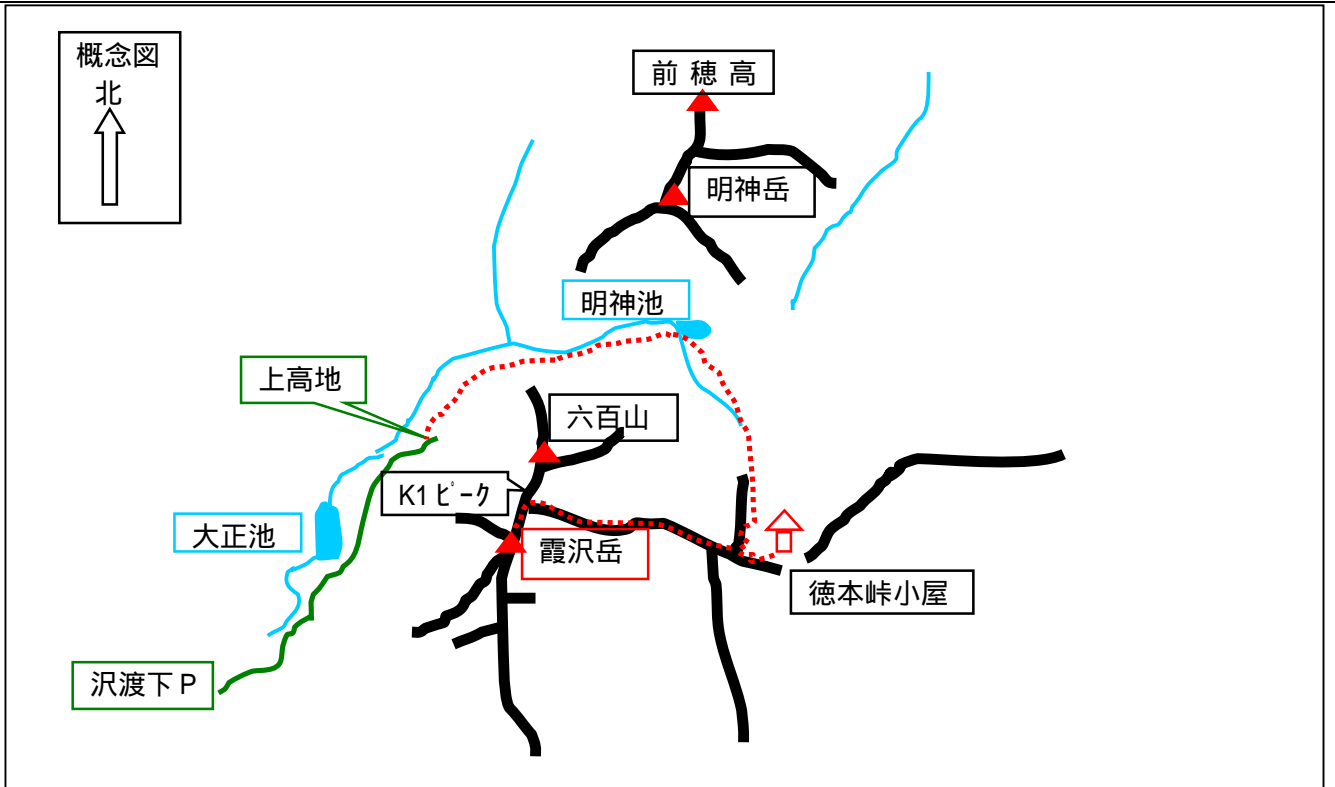
山名[山域]	霞沢山(2646m) 北アルプス	目的[方法]	春の上高地と200名山
期間	2006年6月3日(土)~4日(日)	形態	ピストン
参加人数	2人		

行動記録: 6/3(土)

安城(615) ==0:10== 豊田南 IC(625) ==2:40== 松本 IC(905) ==0:50== 沢渡下(955,1020) ==0:25== 上高地(1045,1115) --0:50-- 明神(1205,1215) --2:50-- 徳本峠小屋 TS(15:05)

6/3(日) 3:00 起床

小屋 TS(420) -1:00-- JP(520) -3:00-- KI(820,835) -0:45-- 霞沢岳(920,935) -3:15-- JP(1250) --0:50-- 徳本峠小屋(1340,1420) --1:20-- 明神(1540,1555) --0:50-- 上高地(1645,1700) ==0:25== 沢渡下(1725,1735) ==0:05== こもればの湯(1740,1820) ==0:45== 瀬亭(1905,1935) ==0:05== 松本 IC(1940) ==2:20== 豊田南 IC(2200) ==0:10== 安城(2210)



日誌:6/3(土) 晴れ

豊田南 IC から東海環状を走り松本 IC を出る。R158 沢渡下でバス(20分間隔、往復 1800 円)に乗り換え上高地に入る。河童橋はカメラを持つ観光客で一杯。川辺や林床ではコリンソウの群落。エンレイソウ、サンカヨウ、シャクナゲも咲いていた。徳本峠からの下山者が多く、踏み跡だらけのテブリある谷を歩く。次第に傾斜もきつくなり尾根分岐に出る。15 分程で峠小屋に着くが樹林の中を探しあてて感じた。テント場(10m 四方の平地)からウエストにも感動した穂高に息を呑む。(1 張千円、トイレ有、水場はないが 150 円/L 購入可) MB1 張のみ。恒例の居酒屋は 1 時間で閉店し、N さんは余裕で 17 時に就寝。M は霞沢岳から帰ってきた人から詳しく教えていただく。地形図上で確認し、19 時 30 分 就寝。(星が綺麗らしい。)

6/4(日) 3 時起床 晴れ時々曇り 4 時 20 分出発。

夏道をジグザクと急登とし残雪のトラバースを繰り返して JP でアイゼン装着。ピーク手前から直角に折れるが不明瞭。広い緩やかな薄暗い尾根を下る。間隔は広いが薄いしははある。鞍部まで所々夏道も出ていて、次第に尾根もはっきりしてくる。雪庇から見る K1 ビークへは直登が最短で安全に見えるが、聞いていた難所。右へ巻きながら、雪斜面のトラバースを何度も繰り返す。3 連続トラバースの 3 本目を渡る前のハイマツの横を登り、更にトラバースすると K1 ビーク。360° の展望で穂高がでかい。アイゼンをはずして明瞭で快適な尾根を歩く。K2 は通過し、静かで渋い名山、霞沢岳に立つ。富士山までの遠望はないが南アルプスは線上に並んでいた。登り返しもあるので早めに下山開始。K1 に人影。結局、会ったのはこの 2 人だけ。トレースのお礼を言われる。うかつにも K1 からの下りで M は 2 回も滑ってしまった。「そんなんでは毛勝は行けないよ」と N さんに言われ弁解の余地もないが弁解した。それからは何も言わずに待ってくれた。テント撤収後の下山は登りよりも夏道を多く歩き、目標 17 時発のバスに乗車(最終便 18:05)。温泉、瀬亭に寄り、伝説化した Y さんの写真を撮り、安城 22:10 着となる。

ポイント: 残雪が多く例年より 3 週間遅れていて、GW 後は人も少なく、明瞭なトレースはなかった。K1 直下はまだ雪斜面で滑りやすく、トラバースも多いので、雪が緩くなる前に通過する。(早朝出発) この時期のルート確認が成功への鍵となるようです。